

授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	銚子市立清水小学校
-----	---------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 国語の調査結果から、領域別では「読むこと」、問題形式では「記述式」に課題がある。
- 誤答分析の解答類型から、目的に応じて文章を読んだり、文章や図表等を結び付けて表現したりすることに課題があることがわかった。
- 学習への取組に支援を要する児童が通常の学級に複数在籍する中で、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりや特別支援教育の推進も学力向上の課題となっている。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 「書くこと」を指導する場面で、教師が「学習のゴールとなるモデル」を提示すれば、児童は見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるであろう。【学習のゴールの提示】
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、PDCAサイクルによる授業改善を推進する。【児童の課題を明確にした授業改善】
- 学校と家庭が連携して、児童が学びに向かう基本的な姿勢の確立をする。【学びに向かう姿勢の確立】

3. 具体的な実践

- ①【学習のゴールの提示】第2学年では、物語の世界を想像したり、登場人物の様子を考えたりしながら、順序に気をつけて読み、続き話を書いて交流することを言語活動として設定し、すごろく風に作成した単元計画やオリジナルブックの提示により、見通しをもって学習に取り組む姿が見られた。
- ②【児童の課題を明確にした授業改善】「全国学力・学習状況調査」の誤答分析を全職員で行い、そこで明らかになった課題から、第5学年では、目的に応じて情報を整理し、自分の考えを紹介して交流する授業実践を行った。自分の考えを表現するための、読書の視点が明確となり、目的意識をもって書くことにつながった。
- ③【学びに向かう姿勢の確立】全校で共通した学習規律の定着（学習用具・姿勢・学習問題とまとめ・自分の考え）や家庭と連携した生活習慣の改善（宿題・翌日の準備・就寝時間の確保）を目指し、年3回の「学力向上推進週間」を実施した。

4. 成果

- 学習のゴールとなるモデルを提示することにより、児童は学習の流れとゴールをイメージすることができ、学習意欲も継続した。また、指導者が事前に学習のモデルを作成することは、児童のつまづきそうな場面や支援を明らかにした上での授業づくりにつながった。
- 定期的な学力向上推進週間の実施により、学習用具の準備や家庭での学習時間の向上等、児童の情意面での変化が見られる。
- 学習のまとめを自分で書く時間を確保することで、学習内容や思考の振り返りができる児童が増えている。次時の学習へ目的をもつことにもつながり、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになっている。

◆担当指導主事から（北総教育事務所 指導主事 松本 実）

- 全国学力・学習状況調査の結果を学校全体で分析を行い、自校の課題を的確に捉えることで、研究の筋道を作ることができている。具体的な研究内容と学校全体での共通実践により、授業改善や子どもたちの変容が見られた。